

HKS関西 ランエボ3号

GT3037S+272"/272"カム+ヘッド腰下チューン+VPC+CP

ドライバー：島田和久

予選タイム：11.484秒



オーテックツカダ ATTKD3.0ステージア号

GT2540×2+RB30エンジン改

ドライバー：塚田晴良

予選タイム：14.110秒



銭谷自動車 RB26-180SX号

GT2540×2+264"/264"カム+RB26エンジン

ドライバー：福永光隆

予選タイム：12.844秒



スタートレーシング JZZ30号

K27MOJKA+264"/272"カム+ヘッドチューン+パワーFC

ドライバー：石井和幸

出走せず



クォーターマイル RB26SPL-Z号

T04R+264"/272"カム+ヘッド腰下チューン+RB26エンジン

ドライバー：西宮啓輔

予選タイム：12.436秒



BLITZ BZ20号

K27MOJHBB+272"/272"カム+ヘッド腰下チューン

ドライバー：中林隆幸

予選タイム：12.119秒



トレンド 岐阜トレンドの若い衆シルビア号

GT3040+264"/272"カム+ヘッド腰下チューン+TRUSTサージタンク

ドライバー：牧村道徳

予選タイム：12.633秒



ウエストスポーツ 80スーブラ号

TD06-20G×2+264"/264"カム+ヘッド腰下チューン

ドライバー：山田英二

予選タイム：12.976秒



Beelレーシング 80スーブラ号

GT2835×2+272"/272"カム+ヘッド腰下チューン

ドライバー：堀ひでゆり

予選タイム：12.235秒



車工房デイスaid よく張りGT-R号

GT2540R改×2+ウエストゲート+272"/272"カム+ヘッド腰下チューン+フルコンボ

ドライバー：小笠原治夫

予選タイム：10.955秒



トライアル グロリアDTM号

GT2835S+ノーマルエンジン+550ccノズル+CP

ドライバー：松原道夫

予選タイム：14.155秒



安定タイムねらいのATで、セコク勝ちにいったトライアルのボッキー。が、予選でバーンアウトさせつつスタートしようとして失敗、タイムがです。本番では当然のようにタイムを短縮して失格。自らのサービス精神に足をすくわれた結果に。

11秒切りたかったHKS関西・島田選手は、予選タイムが遅かったにもかかわらず爆走！ 銭谷・福永選手をモータリッな勢いでプチ抜き、11.02秒とタイムを更新。そのまま失格うへ。

そんなに急いでどこ行くの？



11秒切ったる！



本選前の「負けるつもりはありませぬ」というコメントとあり、見事に優勝を果たしたクォーターマイルの西宮さん。

辛抱、辛抱

12ケツスタート！



0.7秒先にスタートした銭谷・福永選手、スタートが決まりすぎたのか、ゴール前でブレーキを踏んでも間に合わず、予選タイム更新で失格。

追い抜く！



逃げきる！

わずか0.2秒先にクォーターマイル・西宮選手がスタート。3速でつかまえたビーレーシング・堀選手だが、シフトミスでガチョーン！

スーブラ対決！



0.7秒先にスタートしたウエストスポーツ・ターザン山田選手。アクセルコントロールしつつ、鼻の差でビーレーシング・堀選手を抑え込んだ。つまり予選タイム更新でトホホ。

いつもデショ！



作戦失敗やあ

それぞれの

優勝はクォーターマイル RB26SPL-Zだ！



これは1回戦、プリッツMR2との対戦。約0.2秒のハンデをもらっていたが、スタートミスのプリッツ・中林選手を置き去りに、余裕の先行逃げ切りをキメッ！

ゼロヨン仕様を抑え気味に走らせてタイムも安定！

香川のショップ、クォーターマイルは、その名の通り、ゼロヨンが得意なチューニングショップ。ドライバーの西宮さんもゼロヨンは大得意だ。

しかし、2回戦こそ不戦勝だったものの、3回戦、4回戦の相手は、銭谷自動車とビーレーシングというゼロヨンの強豪ショップ。ハンデも1秒以内という熾烈な戦いが繰り広げられた。

しかし、ライバルがわずかに速すぎたり、シフトミスをした中、余裕を持ったドライビングでコンスタントなタイムをマーク。「リアクションタイムを早くするのがうまくいったと思う。うれしかったです」(西宮さん)。

走り慣れたるゼロヨン系ショップ強み！

ゼロヨンで勝ち上がったのは、銭谷、ビーレーシング、クォーターマイルと、ゼロヨンの得意ショップ。それらがゼロヨン慣れしている百千錬磨のドライバーで、予選も本選もタイムのバラつきが少なかった。

とはいっても、先行されればアツくなってしまうのが、ゼロヨン野郎の氣質つてもの。冷静さを保った(ア)クォーターマイルが優勝だ。



リタイアが多くて残念だったのもDゾーンの特徴。予選でミッショントラブルを起こしてしまったオーテックツカダのステージアをはじめ、車工房デイスaid GT-Rはラジエターホース破損でリタイア。スタートレーシングのソアラは出走できず。